

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 6月 1日 更新

事務事業名	男女共同参画まちづくり講座事業		<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画	政策	4 みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部	総務部	課長名 建岡純雄
計画	施策	21 人権が尊重される社会づくり	所属課	総務課	担当者名 飯開輝久雄
体系	基本事業	74 男女共同参画社会に対する理解の促進	所属班	総務・男女共同参画班	(内線) 1218
予算科目	会計一般	款 2 項 1 目 15 事業連番 10905 法令根拠	男女共同参画社会基本法、合志市男女共同参画まちづくり条例		成果優先度評価結果 ② コスト削減優先度評価結果 ①
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	男女共同参画推進の一環として、市民・企業等を対象に、啓発イベントを年2回実施。1999年、国が男女共同参画社会基本法を制定。これにより自治体の推進義務が発生し、講座を予算化。2006年の合併により、統合して講座を継続実施。法律や制度上ではかなり達成されてきたように見えるが、社会の現状を見ると依然として固定的役割分担等の課題は多い。そんな中、合志市男女共同参画まちづくり条例が2007年9月に制定され、合志市の責務が発生し、より積極的に取り組まなければならないようになった。
【業務の流れ】	・懇話会を開催し、その中で啓発イベントの講師等の内容を検討する。・市長決済により実施を決定。・チラシ等で参加者を募る。・講座の開催準備・実施・かたづけ・アンケートの集約・懇話会を開催し、実施結果を振り返る。
【主な予算費目】	職員手当、報償費、消耗品費、役務費、委託料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	若い世代の市民参加が必要。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)	23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
・6/22男女共同参画まちづくり講座参加者 225名・1/22男女共同参画気づきうなずきフェスティバル参加者 525名 懇話会で内容検討を行い、実施した。	・8月に男女共同参画まちづくり講座開催予定・1月に男女共同参画気づきうなずきフェスティバル開催。懇話会で内容の検討を行い、実施する。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) (単位)	予算の主な増減の理由
ア 男女共同参画まちづくり講座開催回数 回	今まで、講師依頼の手段として、業者委託の形式で予算を組んでいたが、県内の方に直接依頼するので、委託料から報償費に変更し単価を下げたことによる減
イ 男女共同参画まちづくり講座参加者数 人	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
市民(18歳以上)	ア 18歳以上の市民 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
・男女共同参画の重要性を認識できるようになる。・生活に活かしていくようになる。	ア 男女共同参画の重要性を認識できたと答えた参加者数と割合 % イ 生活に活かしていこうと思った人の割合 %
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠 市民の方に男女共同参画の重要性を啓発する目的なので、フェスティバルで実施したアンケートの設問の結果を成果指標とした。	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込
① 活動指標	ア 回		2	2	2	2	2	2	0
	イ 人		859	851	870	750	880	890	0
② 対象指標	ア 人		43,595	44,500	45,000	44,577	45,500	0	0
	イ %		91	81.2	85	89	86	87	0
③ 成果指標	イ %		74	56.5	60	67	61	62	0
	イ %								
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円			76	101	96	
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		繰入金	千円						
		一般財源	千円	293	248	252	105	188	
	(A) 事業費計	千円	293	248	328	206	284	0	0
人件費	(A)のうち指定経費	千円	0	0	14	11	15	0	0
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	14	11	15	0	0
	正規職員従事人数	人	119	110	4	73	4	4	0
	延べ業務時間	時間	1,627	1,049	800	453.75	800	800	0
(B)人件費計	千円	6,508	4,175	3,184	1,869	3,296	3,296	0	
トータルコスト(A)+(B)	千円	6,801	4,423	3,512	2,075	3,580	3,296	0	

総トータルコスト  
全体計画  
～年度

(期間限定複数年度のみ記載)

事務事業名	男女共同参画まちづくり講座事業	所属部	総務部	所属課	総務課
-------	-----------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部 (SEE) \*原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 参加者が固定化しているが、講演会の内容や講師の選定により、達成できる見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ①講師の選定により、内容にバラツキがある。②参加者が固定化、高齢者の参加が多いなど、広がりが少ない。③男性の参加者が少ない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・人権啓発教育課と連携し、男女共同参画の啓発推進に取り組む。①人権啓発・人権教育の取り組みとともに、男女共同参画を含めた人権が尊重される社会づくりを行う②動員や内容の連携で、広がりがやすくなる。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 講師謝金、花代、看板代を削減することで可能である。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の人件費なので、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 全市民に呼びかけ、人権が尊重される社会づくりに寄与している。
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 懇話会委員でも講座の協力(駐車場係や受付等)をボランティアでやっていただいている。また、市の責務として啓発活動を行わなければならないため適正である。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

まちづくり講座及びフェスティバルと2回の啓発活動を行ったが、高齢者の参加が多く、若い世代の参加が少ない。限られた予算の中でどう若い世代を呼び込むか課題である。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						